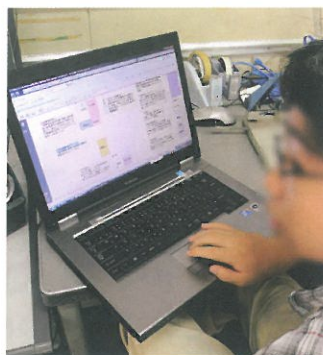


「肢体不自由特別支援学校の キャリア教育の充実」

～豊かな社会生活を送るために～

こばやし のぶこ
校長 小林伸子

的にパソコンを使い、必要な情報を収集できる力を養成している。職場見学も毎年継続的に行っており、地域における障害者の働く現場を知る大切な行事となっている。



進路先調べ

(3) 将来設計〈職業生活に必要な習慣形成〉

生活を見直し一人でできることとできないことを分類。それを一覧にし、「努力すれば改善できること」「依頼しないとできないこと」等、自分の生活を自分で管理できるように取り組んでいる。それぞれの生徒が自分の個別課題を知り、年間の個別課題学習計画をもとに学習を進めている。学習発表時に振り返りの時間を持ち、PDCAサイクルに照らして今後の学習内容を変更する等、より良い計画と実践に繋がるようにしている。

(4) 意志決定〈進路希望の実現を目指した目標設定とその解決への取組み〉

進路決定に関しては、校内実習で働くことの基礎を学び、産業現場等における実習では実際の希望進路先を見据えながら、地域の事業所等で実習を繰り返す。生徒本人の意志と保護者の考えをもとに、担任と進路指導主事の四者で話し合う機会も設けている。そこでは「何のために働くのか」を話し合い、社会参加に必要な力を



職場見学



医療相談・連携

個々の課題にそって協議する。また、本人や保護者の考えの変化や、身体的に無理がないかどうかも確認する場としている。

(5) 身体の自己理解と支援〈自助具〉

生活場面だけでなく、学習場面でも、筋力低下のためにパソコンのキーボードまで腕が挙がらない等、様々な課題があり支援が必要となる。これらの課題に対してより良い学習環境（生活環境）を構築していくために、日々教材教具を開発している。今までできなかったことが、一つの具体的な手だてでできるようになる。その積み重ねが効果的な学習や自己肯定感につながり、生徒の社会参加を推進する大きな力となる。

3 おわりに

本稿では主に、高等部におけるキャリア教育の実践事例を紹介した。このような取組みを通じて、生徒が社会参加するために必要な力を一つ一つ問題提起し、丁寧に実践してきた。小・中学部で培った基礎・基本の力をもとにした高等部での実践は、生徒を大きく力強く変容させている。

さらにキャリア教育を推進していくためには、小学部低学年からより一貫性・系統性をもった組織的な取組みが重要である。教員一人ひとりが生徒の5年後、10年後を見据えて「今」どのような教育を行うべきか吟味していかなければならない。今後も教育課程や教育内容の評価、改善を行い、生徒の豊かな社会生活を実現するために、より良いキャリア教育の実践を学校全体で目指していきたい。